

オンラインによる中国語教育の試み（その 1）

～より高い学習効果を目指して～

Approach to Online Chinese Language Education: towards Higher quality learning

馮富榮・王俊・チョウケイニ・蘇雪蓮・董梅香

Furong Feng / Jun Wang / Jiani Zhang / Xuelian Su / Meixiang Dong

Abstract

In this study, we examined how the benefits of face-to-face lessons can be realized with on-demand lessons, and how to create multimedia presentations (PowerPoint) to be used in on-demand lessons. In addition, we did a survey to explore whether a higher educational effect could be realized in on-demand lessons by creating specialized multimedia presentations. As a result, it was found that not only was student satisfaction high, but also the percentages of students who felt an improvement in Chinese language ability and who felt a sense of accomplishment were high.

1. はじめに

2020 年の春からコロナウィルスが世界中に猛威を振り始めた。そんな状況の下で、日本におけるほとんどの大学では、対面授業からオンライン授業へと切り替えられた。長年培ってきた教室での対面授業から得られた語学教育の経験から、語学の授業は教室でしかできないという考え方が植え付けられていた。教員としては、当たり前のようにになっていた授業のやり方は、突然通用しなくなったという戸惑いと困惑に陥ってしまったことを今でも鮮明に覚えている。

しかしオンライン授業の実施に切り替えることが現実となった以上、対面授業で得られた教育効果をどのようにして、オンライン授業で再現させることができるかを検討しなければならない。そこで、私たちは中国語打ち合わせチームを作って授業の実施方法、授業内容の組み入れ方、どのような形で学生に提供するかなどについて、ミーティングを重ねてきた。本論では、オンデマンド式の授業 PPT 作成の試み、その教育効果および改善点について論じるとともに、モバイルを利用するメディア教材の可能性についても検討することにする。

2. 先行研究

戸田・大久保（2014）が 2012 年秋に新たな取り組みとして「なめらか！発音 3-4」という授業を利用して対面とオンデマンドの併用授業を試み、その結果、オンデマンドを利用した発音

学習は可能であるだけでなく、学習者の自立学習を促すこともできると示唆された。さらに、大久保・張・趙（2014）が同じ授業に、学生が提出した録音音声に対して、メンターがフィードバックを行う仕組みを導入し、その仕組みの効果についてアンケート調査を実施した。その結果この仕組みの利用が発音練習の継続に繋がったことが明らかになったほか、学習者はメンターのコメントを正しく理解し、私的個所を修正でき、尚且つ発音能力が向上したとの見解が得られた。

一方、石田ら（2012）がサイバー大学のフルオンデマンド授業の「コンピューター入門」の学生と早稲田大学の類似科目で、対面式授業の「コンピューター工学」の学生を対象としてアンケート調査を実施した。その結果早大と比べ、サイバー大の方が自分に対する授業の必要性を認識し、今後の学習意欲も向上しているという記述が多いことが分かった。

土谷ら（2004）がオンデマンドシステムによる中国語教育の可能性について検討した。それにより、オンデマンドの特性を活用することにより、教育効果がこれまで以上に高まり、コンピューターを利用した教育が語学教育に対し有効に機能するという結論を出された。一方、賈（2020）は対面授業では教員が中心的な役割を果たすのに対し、オンライン授業では学生が中心的な役割を果たさないと指摘し、崔（2020）は対面授業とオンライン授業の併用は中国語教育の将来像となろうと指摘した。さらに、李（2020）が対面授業とオンライン授業には、それぞれ長所があるので、単純に比較すべきでないと主張している。

要するに、先行研究から分かることは、オンライン授業でも対面授業に劣らない教育効果が期待でき、将来性のある教育方法だということである。

3. 授業 PPT 作成について

オンライン授業に切り替えると決まってから、私たちは、まずリアルタイムにするかオンデマンドにするかについて議論をし、その結果オンデマンドを主としながらリアルタイムも取り入れることに決めた。その理由は、オンデマンドは時間や場所に束縛されることなく、好きな時間に勉強でき、分からないところを何度も繰り返し見られる上、通信環境が優れていなくても対応できる場所にあった。リアルタイムを取り入れる理由は学生の授業に対する意見や要求を生で聞ける上、単語テストや口頭練習ができる場所にある。

しかし、オンデマンド授業の弱点は、学生の学習状況の把握は難しいところにあり、それは学生の学習の様子や反応が直接見られないからである。この弱点を克服するために、私たちは以下のことを中心に議論し、以下の対策を試みた。対象科目は、1年生の「CLS 1・2(中国語入門①②)」と、2年生の「CCS 3・4(実践的中国語①②)」であるが、紙面の関係で、本論では1年生の科目を中心にして述べることに留まる。

1. 授業の内容をどのような形で学生に提示すればいいかについてであるが、PPT に作成して学生に提示することにした。その理由は、学生の携帯電話を最大限に利用しようとし、携帯からも PPT が見られるし、音声も聞けるからである。

2. 授業の内容をどのような順序で学生に提示すればいいかについてであるが、まず授業の内容の概略から始まり、そのあと、文法の説明、単語の説明、本文の説明、課題という順序を取ることにした。
3. 授業の進行方法のアレンジについてであるが、文法の説明の後に、大事なポイントをもう一度まとめるようにし、単語の説明の後、単語の書く練習を指示するだけでなく、その練習のページの写真を提出するようにした。単語のページにも録音を入れ、また本文の説明も音声で説明するようにした。
4. 学生が学習しているかどうかをどのようにチェックすればいいかについてであるが、練習の問題の後、答え合わせをするだけでなく、答え合わせをした際の赤ペンで直したページの写真を提出するようにした。なので、学生に授業ノートを準備するように授業の最初に指示した(図1を参照)。

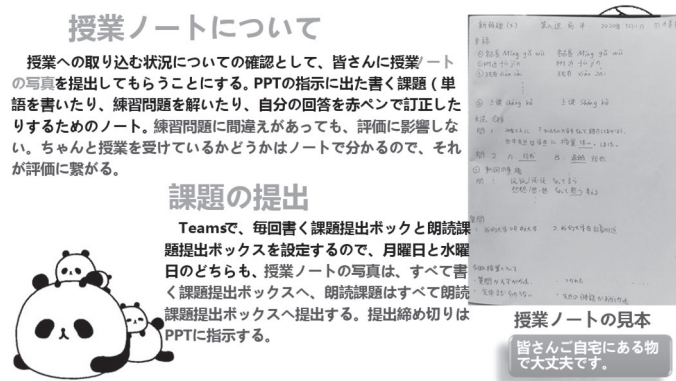


図1 PPTにある授業ノートについての指示

5. 学生が理解できているかどうかを把握するために、文法説明の後に、文法のポイントを理解したかどうかをチェックするための練習問題を作り、それを提出課題にした。
6. 学生の授業に対する意見や要求を生で聞くために、水曜日の授業時間に、Teamsを利用して、単語テストを実施したり、学生の一人ひとりと会話の練習をしたりするようにした(都合の悪い学生には個別に対応をする)。
7. 本学の e-Learning メディア教材の課題、書く課題と朗読課題を毎回出すことにするほか、単語テストも実施し、それらをすべて期末評価に連動させるようにした。期末評価に占めるそれぞれの割合は、1回目の授業で明記した(図2を参照)。さらに、毎回授業用のPPTの最後に書く課題と朗読課題及びメディア教材の宿題提出の締め切り日を明記するようにした(図3を参照)。
8. 学生の発音を指導するために、リアルタイムを利用する発音指導のほか、毎回提出した朗読課題についてのフィードバック(どこができていないか)を一人ずつ行なった。毎回発音の課題を出す狙いは、発音練習の習慣を身に付けてもらうところにある。
9. 中国の文化や中華料理、また人気の歌などを紹介したり、中国のオンライン旅行を取

り入れたりして、学習の疲れの時の気分転換や中国語を勉強するだけでなく、中国の文化にも触れてもらうように工夫した。

授業の進行方法と成績の評価

授業の進行方：オンデマンド式なので、好きな時間に勉強すればいい

- 1) 毎回音声と録画付のPPTを配信し、各自でPPTを利用して勉強する。
- 2) PPTで指示した課題及び、携帯かパソコンによるメディア課題の提出。
- 3) PPTの配信日および授業の内容を次の計画をご覧ください。



成績の評価の仕方：

- 1) 期末テストは実施しない。
- 2) 各課題の完成具合と締め切り時間内に提出したかどうかに基づいて期末評価とする。
音声課題40%、メディア課題40%、書く課題20%



月曜日の新幹線と水曜日の入門はセットになるので、二つの授業を合わせて評価します。

図2 授業PPTにある成績評価についての説明

今日の課題

下記のものをTeamsから先生に提出してください。

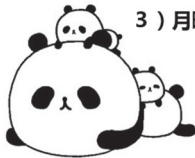
1) 朗読課題（下記文を読む）

- ① 研究棟后边是体育馆和运动场。
- ② 以前，我们大学只有一个学部，
- ③ 欢迎大家来我们大学。

2) 書く課題（PPTの8p、11pと13pの指示内容）

3) 月曜日メディア課題 第八課

音声データは一つにまとめて、提出してね。



締め切り：10月10日（土曜日）

図3 授業PPTにある3つの課題についての説明

授業PPTを作る際、一番問題になりやすいのは、著作権侵害という問題であるが、この科目の教材は自作教材なので、その問題は容易にクリアできた。前期では、以上の方針で授業PPTを作成して使っていたが、後期では、前期で集めた学生の反応や要望に基づいて、以下のような工夫をさらに付け加えた。

1. 単語の説明だけでなく、PPTの「画面録画」機能を利用して、単語の説明とともに単語を覚える練習、つまり、単語を一つずつ説明しながら発音記号の“ピンイン”を消していき、日本語の意味を見せながら中国語を言う練習ができるようにビデオの画面を入れた。さらに、リズムを付けて歌の感覚で楽しく単語を覚えるように工夫した。
2. 本文の説明も「画面録画」機能を利用して板書で説明するようにして、教室で先生の板書を見ながら授業を受けているという雰囲気を作り出す工夫をした。

3. 本文の朗読練習をしやすくするために、本文全体の録音だけでなく、本文を短い文に切り分けて、短い文の一つずつに録音を入れるように工夫した。
4. 練習問題の答え合わせをするとき、ただ答えを与えるのではなく、なぜその答えが正しいかの音声説明を PPT に入れるように工夫した。
5. 後期の「CLS 1（中国語入門①）」では、先生の発音するときの口の動き方をビデオに取り、それを PPT に入れるようにしたほか、先生が授業するときのビデオを時々取り入れ、先生の顔も見られるように工夫した。

以上のような試みの教育効果を検討するために、12月中旬に受講生を対象にしてアンケート調査1を実施した。

4. アンケート調査1について

アンケート調査1の項目は計13項目で、選択肢から選ぶ項目は7項目で、自由記述は6項目である。12月上旬に「CLS 2（中国語入門②）」の受講生の133名を対象に調査を実施し、118名から回答を得た。選択肢から選ぶ7項目の内、PPT作成の工夫及び教育効果、そして学生の学習効果を尋ねる項目は4項目で、その4項目の調査結果を表1に示した。

表1 教育効果および学習効果の調査結果（回答者数と割合）

項目内容	はい	いいえ
1. この授業の PPT 内容は分かりやすいと思いますか。	118 名 (100%)	0 名
2. この授業の PPT は先生が工夫されていると感じていますか。	118 名 (100%)	0 名
6. この授業の受講によって中国語の語学力がアップしていると実感していますか。	111 名 (94%)	7 名 (6%)
7. この授業を履修することによって達成感が味わったと思いますか。	101 名 (86%)	17 名 (14%)

表1から分かるように、授業 PPT の作成は予想以上の効果が得られたと言えよう。特に項目1と項目2に対して、「はい」と答えた学生は100%で、教員たちの努力が回答者の全員から評価された。一方、学習効果についてであるが、項目3の中国語の語学力がアップしたと実感している学生は94%と非常に高かったのに対し、項目4の達成感を味わったと回答した学生の割合はやや低かった。しかしながら86%という割合から多くの学生は達成感が感じられたと示唆された。このような結果から、語学力のアップを実感しているだけでなく、このオンデマンドの授業でも達成感が得られるということが分かった。つまり、この結果から、オンデマンドの授業でも十分に教育効果と学習効果が得られることが示唆され、これがさらに裏付けられたのは、下の項目9と項目10の調査結果である。

項目 9 は、来年週 2 回の中国語の授業として一番望ましい授業形式を聞く内容で、これに対し、① 2 回とも対面式；② 1 回対面式で、1 回オンデマンド式；③ 2 回ともオンデマンド式の 3 つの選択肢を提示した。調査の結果、①の 2 回とも対面式を選んだ学生は 46 名で、39% であるのに対し、②の 1 回対面式を選んだ学生の 46 名と③の 2 回ともオンデマンド式を選んだ学生の 26 名で、計 72 名なので、61% にも達している。これは非常に興味深い結果である。なぜなら、大学生はオンラインの授業に満足していない、または対面授業のほうを望んでいるという一般的な世論とは違う結果だからである。

このような結果になったのは、対面授業より勉強が楽だからだろうか。それとも対面授業よりもっと勉強できるからだろうか。項目 6 の中国語の語学力がアップしたと実感した学生は、全体の 94% で、項目 7 の達成感を味わった学生は、全体の 86% と高かったことから、対面授業より勉強の面においても優れていることで、項目 9 の結果に繋がったと考えられる。

この考えを確かめるために、項目 4 と項目 5 の調査結果を見てみよう。項目 4 は、1 回分の PPT を毎週平均して何回見るかという内容であり、項目 5 は、毎週の受講、練習及び課題完成に使った時間の合計は毎週平均してどのぐらいかという内容なので、いずれも学生の勉強の量を見る項目である。項目 4 の平均値は 2 回で、中には 12 回見ている学生もいる。項目 5 の平均値は 3.8 時間で、中には週に 12 時間勉強している学生もいる。この授業では、PPT で受講するのと毎回 PPT の課題を要求する以外に、モバイルによるメディア教材の提出も要求しているので、それを合わせると、一週間の勉強時間はもっと多く、平均 5 時間以上になると思われる。モバイルによるメディア教材の課題提出に必要な時間を今回の調査に入れなかったが、学生からのフィードバックによると、大体 1 時間半から 2 時間かかると分かる。以上の調査結果から、学生は週 1 回オンデマンド式、または週 2 回オンデマンド式を望んでいるのは、けっして楽だからではなく、勉強できるからだと考えられる。

ところで、私たちの PPT 作成工夫がこのような結果に寄与したのだろうか。つまり学生たちは、私たちの工夫と狙いを感じられているのだろうか。それを見るために、項目 3 の調査結果を分析してみた。項目 3 は、感じている工夫を具体的に教えてくださいという内容で、回答方法は自由記述である。学生からの回答をまとめると、以下の結果となる。

1. 単語の発音練習にリズムを取り入れたこと

一番評価されているのは単語の発音を覚えたり、単語の発音練習をしたりするためにリズムを取り入れていることで、26 名からの評価を得た。

2. 単語、文法と本文の説明に動画と音声を使ったこと

動画や音声を使った説明は非常に分かりやすいと評価した学生は 34 名で、音声がたくさんついていることや繰り返し発音の練習ができるのを評価した学生は 15 名である。

3. 練習問題に関する工夫

練習問題に答えを教えるだけでなく、動画と音声を使って説明するところや、先生の説明の後、自分で練習できるページを用意するところを評価した学生は 11 名である。

4. 文法説明に関する工夫

文法について動画と音声を使って文法の説明をする工夫を評価した学生は二番目に多く、22名となっている。続いて文法の説明後のまとめとポイントは分かりやすいと評価した学生は14名である。

5. 中国文化や中華料理紹介の取り入れについて

11名の学生は、中国文化や中華料理などの紹介は非常によかったと評価してくれた。

6. 分かりやすいところ

文法の説明は分かりやすく、PPT色の使い分けなどを評価した学生は17名である。

以上の結果から私たちの工夫と狙いは、ほぼ全部学生に伝わったと分かった。ところで、学生は、私たちのPPTのどこがいいと感じているのだろうか。それを見るために、項目11の調査結果について調べた。項目11の内容は、この授業のいいところを教えてくださいという内容で、回答方法は自由記述式である。118名の回答者からすべて回答を得られたが、紙面の関係で回答の一部分(抜粋なし)を表2に載せた。

表2 PPTによるオンデマンド式のこの授業のいいところの回答例

1	自分のペースで勉強ができる。理解をするまで、考えられる。自分の好きな時間に勉強することができるし、前回の授業内容も思い出すことができるところがいい所だと思います。
2	自分の好きな時間に受けることができる。そして、苦手な場所は繰り返し何度も聞いて発音をチェックできる。そして、PPTは、ずっと保存してあるため、過去のものも見たいと思った時にすぐ見ることが出来て復習するにはとてもやりやすい。
3	対面だと、授業が終わったあとに発音を忘れてしまったりするとなかなか復習できないけど、PPTがあることによっていつでもできるし、時間をかけて自分が納得できるまで勉強できる。
4	何回も音声の聞き直しができる。発音を間違えて恥ずかしい、などがないので焦らず勉強できる。いつでも勉強できる。
5	音声を何度も繰り返し聞いて練習できる。また、課題を提出する時に自分の声を録音するので、先生の音声と比較することができる。好きな時間に勉強することができる。いいところだと思います。
6	何回も繰り返し見れるところ。対面だとそれきりになりがちで、内容の復習をしっかりする事は難しいけれど、オンデマンドだと何回も分からないところを見返すことができる。
7	自分の好きな時間に受けることが出来、今までの授業で出てきた単語や文法を振り返る時にすぐに資料を探すことが出来るので勉強がしやすい。

学生の回答を見ると分かるように、彼らにとって一番いいところは、3つである。①好きな時間に勉強できること、②何度も見直すことができること、③自分が理解できるまで勉強できること、といった内容である。回答者の全員からこの項目の回答が得られたということから、私たちの PPT は、何らかの形で学生から評価されたと言えよう。このことがさらに裏付けられたのは、項目 13 のこの授業に対する全体的な感想についての調査結果である。自由感想の中でも、評価してくれた学生は 94% で、評価しなかった学生は、わずか 5% で、特になしと答えた学生は一人であった。全体感想の回答の一部分（抜粋なし）を表 3 に載せた。

表 3 被験者の全体感想からの抜粋

1	対面授業は 1 度しか受けることができないが、オンデマンド授業だと、何度も受けることができ、分からなかったところを見直すことができるため、私はオンデマンド授業が非常にありがたいです。また、先生とチャットで連絡が取れるので直接会うことができなくても、相談ができて助かっています。
2	オンデマンド式は、自分が積極的に頑張らないと中国語のスキルを向上させていけないので、負担にはなるが深く勉強できるのは良い点だと感じる。繰り返し音声を聞けることや、何度も資料を見ることができるのは自分にとってもプラスになってる要素だと感じる。中国語に関することだけでなく、文化や食、音楽についても紹介してくれているので、知らないことを知ることができるのは勉強の中の 1 つの楽しみである。後期になり、覚えることも増えてきて大変ではあるが、引き続き頑張って練習していきたいと思う。
3	オンデマンド式により先生との距離が遠く感じてしまうのではないかと感じていましたが、ユーモアのある動画やリアルタイム授業での良い意味で親しみやすい話し方で、想像以上に楽しく授業を受けることができました。PPT 講義も 1 人で受けるという感覚より、一緒に練習しようというような感覚にさせてくれる内容で分かりやすかったです。

ところで、この PPT の改善すべきところは何だろうか。それを見るために、項目 12 のこの授業に関する改善点を聞くという調査結果を見てみた。回答者数は 59 名で、全体の 50% である。そのうち一番多いのは、「発音の仕方や文法の不明なところはすぐ確認できない」という回答で、計 14 名で、全体の 11% 程度で、「達成感が感じられなくて、継続しづらい」との回答者は計 12 名で、全体の 10% である。続いて「ダウンロードに時間がかかる」と回答した人は 6 名で、全体の 5% である。この結果から分かるように、対面授業だと、分からないところをすぐ先生に聞けるが、オンデマンドだとすぐ聞けないのは学生にとっては不便なところで、今後これをどう改善すればいいかはオンデマンド授業の大きな課題だと言える。

5. モバイルメディア教材の可能性

オンライン授業を実施するにあたって、大きな壁となっているのは、ネットの回線状況である。家庭のネット回線状況がよくなかったり、パソコンを持っていなかったりする学生には、オンライン授業による不利益を被ってしまうことがあると思われる。こうした問題を解決するために、モバイルによる e-Learning 学習システムの開発が必要である。なぜなら、携帯を持っていない学生はほぼいないからである。携帯電話を利用して勉強する可能性を模索するために、モバイルによる e-Learning 初歩中国語学習の体験版を作成してみた。その際、右のような工夫をした。①簡単にアクセスができるようにするために、QR コードを採用した。②操作マニュアルを見なくても簡単に操作できるように工夫した。③ゲーム感覚で、面白くまた楽しく勉強できるような工夫をした。④間違ったら正解が見られるようにし、確実に勉強でき、自分ができてきたという達成感を味わえるように工夫した。この e-Learning 初歩中国語学習の体験版を後期「CLS 1 (中国語入門①)」の学生に使ってもらった上、アンケート調査2を実施した。

アンケート2ですが、選択肢から選ぶ項目は7項目で、自由記述式の項目は3項目での計10項目である。後期「CLS 1 (中国語入門①)」の受講者の28名から回答が得られた。項目1はQRコードによるモバイル教材へのアクセスはいいかどうかという質問で、項目2はこのモバイル教材の操作は簡単かどうかである。項目1は「いい」と回答した学生は27名で、全体の96%であり、項目2は操作が「簡単だ」と答えた学生は24名で、全体の86%である。この結果からアクセス方法や操作方法は学生にとって難しくないことが分かる。

続いて、項目3のこの教材を使ってみて面白かったかと項目5のゲーム感覚で勉強できるころはいいかという質問であるが、項目3では「面白いと思う」と回答した学生は23名で、全体の82%で、項目5では「よかったと思う」と回答した学生は27名で、全体の96%であった。さらに項目6では、これからもこのような教材を「使ってみたいと思う」と回答した学生は26名で、全体の93%である。この調査結果から分かるように、この形のモバイル教材は学生から評価され、尚且つこれから使いたいものだと分かる。

ところで、このモバイル教材を利用して自己学習でも勉強できるのだろうか。それを見るために、項目4と項目7の調査結果を見ることにした。項目4は達成感を感じられたかという質問で、項目7は中国語の勉強に役立ったかという質問である。項目4では達成感を感じられたと答えた学生は27名で、項目7でも勉強に役立ったと答えた学生は27名で、いずれも全体の96%という高い割合を示した。この結果からは、授業用のPPTのみならば、モバイルによる e-Learning 学習システムの構築は非常に有効な教育手段であることが分かり、今後大いに利用する価値があると分かった。表4は、自由記述式の項目8の「このモバイル教材を使ってみてよかったと思うところ」の回答例(抜粋なく)であるが、28名の内、24名から回答が得られた。表5は項目10の「このモバイル中国語教材についての感想を自由に書きなさい」の回答の例(抜粋なし)であるが、28名の内23名から回答が得られた。

表 4 よかったところについての回答からの抜粋

1	中国語を習う上で 1 番最初に覚える基礎のようなところをあのように簡単なゲーム形式でやることで、中国語に対する苦手意識や先入観を持つことなく取り組める点はとても良いと感じました。
2	自分の苦手な分野や単語などを自分のペースで何度も音声を聞きながら学習できたところがとてもよかったと思います。
3	自分が学びたい所を好きなだけ音声を聞いたり見たりできるところがいいと思いました。また、問題形式のところでは合っていたら拍手の音が流れるのは、勉強が少しでも楽しくなると感じました。

表 5 このモバイル教材についての感想からの抜粋

1	自分が苦手だと思う分野を繰り返し学習することができました。各分野毎にゲームが設定されていてクイズ感覚で中国語を学習できたことがとても面白く、楽しかったです。
2	言語は書けるようになるだけであったり、読めるようになるだけではダメだと思います。というのも、話せるようになることでコミュニケーションが取れるようになったりすると思うからです。もちろん、文献を読むためであったり、旅行で看板などを認識するためには読めるようになることも必要ですが、このモバイル中国語教材のように実際の発音を耳で聞くことでより効果的に覚えることができると思います。英語もそうですがリスニングがあるだけで言語能力は飛躍的に伸びると思うので、このような音声付きの教材は重宝したいと思います。
3	まず、このモバイル中国語教材を使ってみて、「この教材ならどこでも取り組める」と感じました。いつも外国語を勉強するときは、たくさんの教科書が必要となります。そのため、今までは外出先などでは外国語の勉強に取り組みにくかったのですが、このモバイル中国語教材を使えば教科書が手元になくても気軽に勉強に取り組めて、本当に良い教材だと思いました。是非、今後も使ってみようと思いました。

表 4 と表 5 の内容から、このモバイル教材は、学生から高い評価が得られ、今後引き続き開発していく価値があると言えよう。では、この教材の改善点については 15 名から回答が得られ、主な内容はピンインを付けてほしいことやもっと難易度を上げるべきこと、さらに読み上げのスピードを調整できるようにしてほしいことなどである。

6. 今後の課題

この研究から分かったことは、オンデマンド授業でも対面授業と同じような教育効果、ある面においてはそれ以上の効果が期待できるということである。これは、自分の語学力がアップ

していると感じ、達成感を味わったと回答した学生の割合は非常に高いからである。しかしながら、今回の調査結果からは、学生同士の交流及び学生同士の相対的な比較はできないところ、また質問があってもすぐに先生に聞けないところに、オンデマンド授業の問題点があると分かった。

そのほか、教員側としては、大きな問題点と感じているのは、学生へのフィードバックがすぐ行えないことである。なぜなら、学生の一人一人の発音を聞きながら、ところどころできていない部分を書き写してから学生にフィードバックをするのは非常に時間のかかる作業だからである。特に、1クラスの履修者数が20名以上超えた場合、学生への個人的な指導も学生の発音のチェック及び問題点に対するフィードバックを非常に大きな負担と感じた。陳(2020)によると、オンライン授業の望ましいクラス定員は12人までだという。よりよいオンデマンド授業をしようとすると、PPTの作成に非常に時間がかかることから、学生への個人指導の時間をなかなか作れなくなる。よって、今後オンデマンド授業を実施するにあたって、クラスの定員を減らすなどの対策が必要だと考えている。さらに同じクラスの学生同士が交流できる機会をどのようにして作ればいいのかも今後の研究課題である。最後にモバイルによる自己学習のシステムの構築も今後の課題である。

注

この研究のモバイルメディア教材の可能性の部分は愛知淑徳大学の2020年度の研究助成金を受けており、調査2に使ったモバイルを利用するe-Learning 初歩中国語学習の体験版は、その研究助成金で作成したものです。

参考文献

- 石田崇・畑上英毅・後藤正幸・平澤茂一(2012) 「フルオンデマンド授業における学生アンケートの分析」 第74回全国大会講演論文集, 2012(1), 425-426, 2012-03-06
- 贾 益民(2020) 「新冠疫情对海外华文教育的影响及应对策略」 语言教学与研究, 2020 年第4期
- 大久保雅子・張 婉明・趙 靚(2014) 「オンデマンド授業における発音学習支援：メンターによる「発音チェック」機能を中心に」 早稲田日本語教育学(14-15-16), 39-60, 2014-02-13
- 大久保雅子・張 婉明・趙 靚(2014) 「オンデマンド授業における発音学習支援：メンターによる「発音チェック」機能を中心に(特集 日本語音声教育の新展開) — (早稲田大学における日本語音声教育)」 早稲田日本語教育学(14-16), 39-60, 2014-05
- 李 泉(2020) 「大变化、小思考：线上教学的一点启示」 语言教学与研究, 2020 年第4期
- 崔 永华(2020) 「关于汉语教师现代科技素养的培养问题」 语言教学与研究, 2020 年第4期
- 陳 聞(2020) 「“化危为机”的汉语教学新态势」 语言教学与研究, 2020 年第4期
- 戸田貴子・大久保雅子(2014) 「新しい音声教育実践における学習者の学び：オンデマンド併

用授業による発音学習（特集 日本語音声教育の新展開）―（早稲田大学における日本語音声教育）早稲田日本語教育学(14-16), 1-18, 2014-05

土谷彰男・佐藤浩一・横田文彦[他]・楊 達(2004)「オンデマンドシステムによる中国語教育の可能性について」コンピュータ&エデュケーション 17(0), 159-165, 2004